

学会長講演 略歴

座 長

安藤 高夫（あんどう たかお）
日本慢性期医療協会 副会長

■ 略歴 ■

1984年日本大学医学部卒業。1989年医療法人社団永生会理事長。2017年第48回衆議院議員選挙に比例東京ブロックから出馬し当選。厚生労働委員会委員等を務めた。現在は、自民党政務調査会長特別補佐、日本慢性期医療協会副会長、全日本病院協会副会長、東京都医師会参与、地域包括ケア病棟協会副会長、日本認知症グループホーム協会常務理事等。

演 者

橋本 康子（はしもと やすこ）
第30回日本慢性期医療学会 学会長
日本慢性期医療協会 会長
医療法人社団和風会 理事長
社会福祉法人徳樹会 理事長
社会福祉法人福寿会 理事長

■ 略歴 ■

名古屋保健衛生大学（現 藤田医科大学）医学部 卒業
香川医科大学（現 香川大学医学部）第1内科教室 入局
米国インディアナ大学腫瘍学研究所 勤務
医療法人社団和風会 橋本病院 勤務
医療法人社団和風会 理事長 就任
医療法人社団和風会 千里リハビリテーション病院 開設
医療法人社団和風会 千里リハビリテーションクリニック東京 開設

日本慢性期医療協会 会長
慢性期リハビリテーション協会 会長
全国抑制廃止研究会 幹事
香川県抑制廃止研究会 会長
香川県女医会 会長
厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会 委員
厚生労働省 社会保障審議会 介護保険部会 介護分野の文書にかかる負担軽減に関する専門委員会 委員
日本地域医療学会 理事
新型コロナウイルス感染症対応人材ネットワーク運営委員会 委員
病院薬剤師を活用した医師の働き方改革推進事業 協議会委員
回復期・慢性期における看護の役割の明確化に係る調査検討委員会 委員
日本地域包括ケア学会 理事

PL

日本慢性期医療協会の目指す道

第30回日本慢性期医療学会 学会長

橋本 康子

今年度から日本慢性期医療協会会長を仰せつかった。責任ある大役を拝命し身の引き締まる思いである。本学会長講演では、武久名誉会長が打ち出された「良質な慢性期医療がなければ日本の医療は成り立たない」をベースに「日本慢性期医療協会の目指す道」についてお話ししたい。まずは、慢性期医療を取り巻く課題である。今の日本は、高齢化などにより慢性期医療が必要な患者が増加する一方、医療介護の担い手が減少するという構造的な問題に直面している。このような中、私たち慢性期医療の担い手がまずすべきことは、寝たきりなどを可能な限り防止することである。そのためには、私たち慢性期医療における「質」「量」、そして「意識（やる気）」の改善がその課題と考えている。

「質」では、医療と介護のシームレス化、リハビリテーション質の向上、専門性を活かしたチーム医療、人間らしい入院生活、「量」では、リハビリテーション量の増大、ケア人材の確保、「意識（やる気）」では、品質を高める教育と仕組み、などである。

それらの課題の中でも、今回の学会は、チーム医療の原点となるコミュニケーションに焦点を当て、「コミュニケーション・ファースト」をテーマとした。社会が成熟したことにより、医師を万能視していた患者側の意識も変わってきている。特に急性期医療に比べ、患者と過ごす時間も長い慢性期医療では、患者のわからない専門用語での説明や指示だけなどでは、信頼関係を築くことは難しい。これは、医療者と患者家族の関係だけでなく、医療従事者同士の関係性も同様である。病棟配属などにより、異なる専門職が増え、チームメンバーの人数も職種も多様になっているため、お互いを理解し、専門性を高めるスキルが必要となってきた。そのスキルの一つがコミュニケーションである。

このコミュニケーションスキルを知り、実践するために、本学会では医療業界以外からも著名な方々をお招きした。ユニクロやセブンイレブンなどを手掛けられているクリエイティブディレクターの佐藤可士和氏からは、デザインなどを通して自分の思いをどのように伝えるかを対談形式でお話しいただく。アフリカ系として日本の大学で初めて学長を務められたウスビ・サコ氏からは、多様な価値観が混じり合う中で、お互いの多様性を認める共生社会を生きるヒントが得られるはずである。さらには、坂上貴之氏には心理学分野から行動分析学などの専門的なお話が伺える。

立場や職種、年代などの違いを理解し、チームとしての力を発揮するためのコミュニケーション力が、これからの慢性期医療を支える大きな力になると考えている。